

平成 28 年度全国体力・運動能力調査 笠間市の結果について

《平成 28 年度全国体力・運動能力調査の概要》

1. 調査の目的

子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

2. 調査の名称

「平成 28 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

3. 調査の対象とする児童生徒

小学校第 5 学年および中学校第 2 学年

《笠間市平均と全国平均および茨城県平均との比較》

小学 5 年生

小学 5 年生では、男女ともに全 8 種目で全国平均を上回った。

茨城県平均と比較すると、男子は握力、上体起こし、反復横とびを除く 5 種目、女子は握力を除く 7 種目で笠間市平均が上回った。

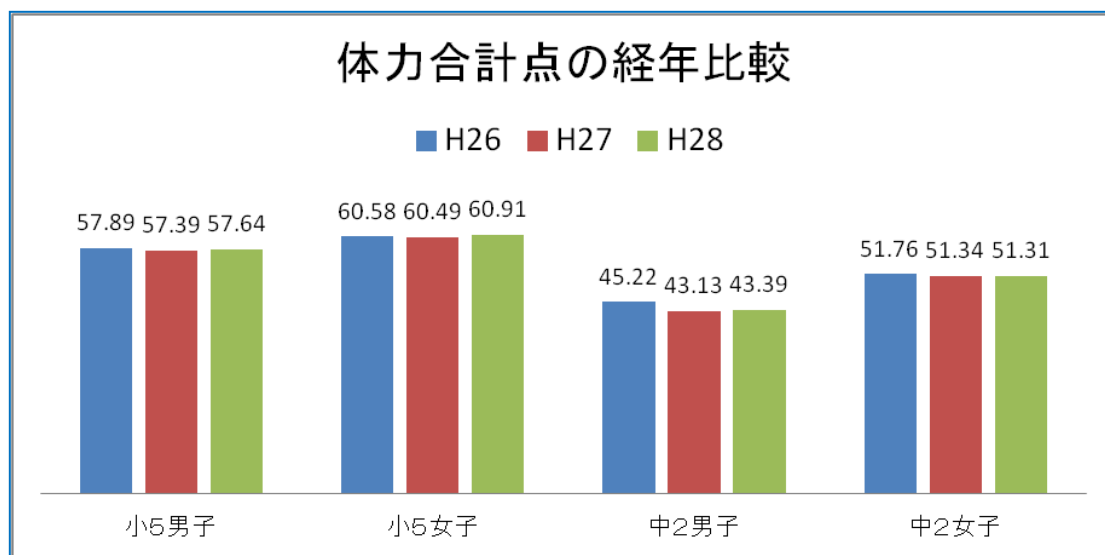
中学 2 年生

中学 2 年生では、男子は長座体前屈、反復横とび、立ち幅跳びを除く 5 種目、女子は全 8 種目で全国平均を上回った。

茨城県平均と比較すると、男子は握力、20m シャトルラン、ソフトボール投げの 3 種目、女子は握力、20m シャトルランの 2 種目で笠間市平均が上回った。

《笠間市の経年比較(体力合計点)》

笠間市では、中 2 女子を除く調査対象で前年を上回った。



≪笠間市の課題および学校の取組≫

小学5年生

男女ともに全種目で全国平均を上回った。各学校で、中休みや昼休みになわとびやランニング等の全校運動を実施している。これらの取組が跳力や長距離走力の向上に繋がっているとみられる。反面、男女ともに握力に課題が見られた。体育の授業の準備運動にサーキットトレーニング(うんてい、のぼり棒や鉄棒など複数の遊具をまわっていく運動)を導入したり、ジャングルジムやボール運動等の遊びを奨励したりするなど、握力を含めた筋力の向上に取り組んでいく必要がある。

中学2年生

男女ともにほとんどの種目で全国平均を上回った。中学校では走力の向上に努めている学校が多く、その効果は20mシャトルランや50m走の記録に現れている。課題が見られるのは長座体前屈と立ち幅跳びであり、男女ともに茨城県平均を少し下回った。準備運動時の十分なストレッチの実施や、個人の運動能力に合わせたトレーニングメニューの作成といった柔軟性や跳力の向上に対する取り組みが必要である。

小中学生ともに留意しなければならないのは、個々人で得手不得手があることから、自分自身で楽しみや課題を見つけ、運動する習慣を持つことが重要である。そのために、教育委員会や学校は、動機づけとなるような環境をさらに整備したり、授業の質を高めていったりすることが必要不可欠である。